

目 次	
1. 平成元年度利用申請の受付について	1
2. 平成2年度利用申請の受付について	1
3. WISEPACKの追加機能について	3
4. PASSWORDコマンドの仕様変更について	5
5. 平成2年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について	5
6. 日本語T e X及び関連コマンドの公開について(UTS)	7
7. 「利用の手引 センターコマンド編」の発行について	9
8. MANUALコマンドの変更について	9
9. 「利用の手引 基本編」の発行について	11

1. 平成元年度利用申請の受付について

本年度の利用申請(新規・追加)の受付は、2月28日(水)で締切ります。なお、科学研究費による利用申請の受付は、1月27日(土)で締切ります。

(共同利用掛 電(内)2505)

2. 平成2年度利用申請の受付について

・継続申請について

- 九州大学を所属センターとしている場合
平成元年度当センターを所属センターとしている利用者には、「計算機利用申請書(継続用)」を1月下旬に送付しますので、引き続き利用される方は、その申請書中の説明を熟読の上2月1日(木)～3月10日(土)までに申請を行ってください。
- 九州大学を所属センターとし、他センターを第二センターとしている場合
上記申請を行い、その申請承認書を受理した後、別表の当該センターの受付期間中に、SINSEIコマンドで当該センターへ継続手続きを行ってください。
- 九州大学を第二センターとしている場合
所属センターへ継続申請を行った後、所属センターの用意したコマンドで3月20日(火)までに九大センターへ継続手続きを行ってください。
- UTSシステムを継続利用する場合
上記1.又は3.の継続手続きの承認を受けた後、SINSEIコマンドで平成元年度最終運用日までにUTSシステムへ継続手続きを行ってください。

・新規・追加申請について

平成2年度新規・追加利用申請の受付開始は3月1日（木）からです。

（別表）

センター名	申請種別	所属センターとしての受付期間	第二センターとしての受付期間
北大 センター	H元年度新規・追加	～H2. 3. 30	～H2. 3. 30
	“ 変更・取消	～H2. 3. 30	～H2. 3. 30
	H2年度への継続	H2. 3. 1～H2. 4. 28	H2. 3. 1～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
	H元年度新規・追加	～H2. 2. 10	～H2. 2. 10
	“ 変更・取消	～H2. 3. 26	～H2. 3. 26
	H2年度への継続	H2. 2. 1～H2. 3. 6	H2. 2. 1～H2. 3. 20
H2年度新規・追加	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
	“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
	H元年度新規・追加	～H2. 2. 28	～H2. 2. 28
	“ 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
H2年度への継続	H2. 2. 1～H2. 2. 28	H2. 2. 1～H2. 3. 20	H2. 2. 1～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 3. 12～	H2年度運用開始日～
	“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2年度運用開始日～
	H元年度新規・追加	～H2. 2. 24	～H2. 2. 10
“ 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
	H2年度への継続	H2. 2. 13～	H2. 2. 13～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 2. 13～	H2. 4. 2～
	“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
H元年度新規・追加	～H2. 2. 15	～H2. 2. 15	～H2. 2. 15
	“ 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
	H2年度への継続	H2. 2. 1～H2. 3. 10	H2. 2. 1～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 3. 12～	H2年度運用開始日～
“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～	H2年度運用開始日～
	H元年度新規・追加	～H2. 2. 28	～H2. 2. 28
	“ 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
	H2年度への継続	H2. 2. 1～H2. 3. 20	H2. 2. 1～H2. 3. 20
H2年度新規・追加	H2. 3. 1～	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
	“ 変更・取消	H2. 4. 2～	H2. 4. 2～
	H元年度新規・追加	～H2. 2. 28	～H2. 3. 20
	“ 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
H2年度への継続	H2. 2. 1～H2. 3. 10	H2. 2. 1～H2. 3. 20	H2. 2. 1～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 3. 1～	H2年度運用開始日～
	“ 変更・取消	H2. 3. 1～	H2年度運用開始日～

学情 センター	H元年度新規・追加	～H2. 2. 17	～H2. 2. 17
	” 変更・取消	～H元年度最終運用日	～H元年度最終運用日
	H2年度への継続	H2. 2. 13～H2. 3. 20	H2. 2. 13～H2. 3. 20
	H2年度新規・追加	H2. 3. 19～	H2年度運用開始日～
	” 変更・取消	H2. 3. 19～	H2年度運用開始日～

<注>詳しくは各センターのセンターニュースを御覧下さい。

(共同利用掛 電(内)2505)

3. WISEPACKの追加機能について

WISEPACKにCOMPARE機能, IOTRACE機能の2つの新しい機能を1月22日から追加しています。WISEPACKは, FORTRANプログラムの開発・保守にかかわる作業を支援するためのプログラムパッケージで, プログラム開発・保守作業の信頼性と生産性の向上を目的としているものです。

詳細については参考文献を参照して下さい。

1) COMPARE機能

2個のファイルの内容を比較する。比較して一致していない場合は, 異なっている所の情報を出力する。対象ファイルは, FORTRANソースファイルとプログラム実行結果および任意のテキストファイルがある。

・出力結果例

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*
#1 000001      INTEGER AA, BB, CC, D
#2 000001      INTEGER A, B, C, D

#1 000002      DATA AA/10/, BB/12/, CC/15/
#2 000002      DATA A/10/, B/12/, C/15/

#1 000003      D=AA*(BB*20+CC)
#2 000003      D=A**C/B

#1 000004      WRITE(6, 20)D
#2 000004      WRITE(6, 20)A, B, C, D

```

異なる内容には下線が付く。
(TEST1の内容)

```

+-----+-----+-----+
! NO. ! MEMBER NAME ! COMPARISON !
! +-----+-----+
! ! FILE#1 ! FILE#2 !
+-----+-----+-----+
! 1 ! MEMO1 ! MEMO1 ! SAME ! ... FILE#1とFILE#2は同じ内容
+-----+-----+-----+
! 2 ! TEST1 ! TEST1 ! DIFFERENT ! ... FILE#1とFILE#2は異なる内容
+-----+-----+-----+

```

2) IOTRACE機能

プログラムで使用されている入出力文が、時間の経過とともに、どのように実行されたか記録し、入出力処理の流れを把握するための情報を提供するプログラムである。IOTRACE機能には、プリント出力トレース機能と入出力処理トレース機能がある。

・出力結果例

GENERATORの出力情報

```
<< MAIN >> = MAIN =  
  
EXTERNAL FILE I/O STATEMENT(S) 1  
NO.06 WRITE FRQ. 1  
① ② ③
```

- ① 論理番号
- ② 入出力処理の種類
- ③ 出現回数

EDITORの出力情報

```
I/O TIME - SEQUENCE  
1) UNIT:FT06F001  
  
TIME PROGRAM ISN I/O RECORD FORTRAN  
SEQUENCE NAME LENGTH STATEMENT  
-----  
1 MAIN 00000602 OUT - WRITE (6, 20) A, B, C, D  
① ② ③ ④ ⑤
```

- ① 時系列番号
- ② プログラム単位名
- ③ 内部文番号
- ④ IN, OUTレコード長
- ⑤ FORTRAN文

参考文献

1. 九州大学大型計算機センターニュース No. 365
2. 計算機マニュアル, FACOM OS IV/F4 MSP WISEPACK説明書
(78AR-3050-2), 富士通(株)

(ライブラリ室 電(内) 2508)

4. PASSWORDコマンドの仕様変更について

1月22日(月)から、MSPシステムにおけるパスワード変更コマンドの仕様を以下のように改良しました。

- ・先に古いパスワードを入力させ、本人の確認をする。
- ・新しいパスワードの入力を2度行うことで、誤入力を防ぐ。

使用例

READY

PASSWORD

ENTER OLD PASSOWRD : _____

← 古いパスワードを入力する。

ENTER NEW PASSOWRD : _____

← 新しいパスワードを入力する。

RE-ENTER NEW PASSWORD : _____

← 再度、上記の新しいパスワードを入力する。

PASSWORD CHANGED.

READY

注意

- ・パスワードは、英字で始まる8文字以内の英数字を入力してください。
- ・入力したパスワードは表示されません。

(第一業務掛 電(内)2517)

5. 平成2年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領(後述)に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成2年2月26日(月)
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室(内線 2508)まで提出する。
(申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してあります。)
4. 対象課題 a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開するものとしますが、これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
- ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
- iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。

2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な箇所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経

- 過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間 (分)	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額 (万円)	10	15	20	25	30	35	40	45	50

(ライブラリ室 電 (内) 2508)

6. 日本語 TeX 及び関連コマンドの公開について (UTS)

1月22日(月)から標記システムをUTS上で公開しています。コマンドは以下のとおりです。

1) j t e x

日本語 TeX を起動。

詳しくは、以下の文献を御覧下さい。

・ Donald E. Knuth TeXブック, アスキー出版局, 1989.

2) j l a t e x

日本語 LaTeX を起動。

詳しくは、/usr/local/doc/jlatex 及び以下の文献を御覧下さい。

・ L. Lamport LaTeX-A Document Preparation System, Addison-Wesley, 1986.

■使用例

jlatex latex.sample

サンプルは、次のところにあります。

/usr/local/jtex/tex-sample/misc/lasample.tex

3) a m s t e x

日本語 AMS-TeX を起動。

詳しくは、以下の文献を御覧下さい。

・ M. D. Spivak The Joy of TeX - A Gourmet Guide to Typesetting with the AMS-TeX macro package, American Mathematical Society, 1986.

■使用例

amstex amstex.sample

サンプルは、次のところにあります。

/usr/local/jtex/tex-sample/misc/amsample.tex

4) j b i b t e x

日本語 B I B T e X を起動.

詳しくは, /usr/local/doc/jbibtex 及び

/usr/local/bin/man コマンドで本コマンド名を指定して下さい.

5) m u t e x

日本語 M U T e X を起動. (楽譜がかけます.)

詳しくは, ユーザズガイド (次の手順で出力) を御覧下さい.

lp -dps -ops /usr/local/doc/mutex.ps

サンプルは, 次のところにあります.

/usr/local/jtex/tex-sample/mutex/bach.tex

6) d v i 2 p s

d v i フォーマットをポストスクリプトフォーマットに変換する.

入力形式

• dvi2ps [-f 開始頁] [-t 終了頁] dviファイル名

詳しくは, /usr/local/bin/man コマンドで本コマンド名を指定して下さい.

■使用例

dvi2ps latex.dvi > latex.ps

lp -dps -ops latex.ps

その他に, 必ずしも日本語化はされていませんが, 以下の関連コマンドがあります.

• d e t e x

T e X と L a T e X ドキュメント内のコントロールシーケンスを削除する.

• d v i s e l e c t

D V I ファイルから指定ページを取り出す.

• d v i t y p e

D V I ファイルを可視形式に変換する.

• t e x c h k

L a T e X のシンタックスチェックを行う.

• t e x e q n

T e X と L a T e X ドキュメント内から数式を取り出す.

• t e x e x p a n d

T e X と L a T e X ドキュメント内でインクルードしているファイルを展開する.

• t e x i n d e x

L a T e X の索引を作成する.

• t e x m a t c h

T e X と L a T e X ドキュメントの制御指示子のマッチングチェックをする.

・ t e x s p e l l

TeXドキュメント内の単語のスペルチェックをする。

・ t g r i n d

TeXを使ったプログラムソースを清書する。

詳しくは、/usr/local/bin/man コマンドで各コマンド名を指定して下さい。

(ライブラリ室 電(内) 2508)

7. 「利用の手引 センターコマンド編」の発行について

従来、「センター開発収集コマンドマニュアル」の名前で、オンライン出力による提供をしてきたマニュアルを、この度標記の名前に変更して発行します。今回より製本版とオンライン出力の両方の形で提供します。製本版は数に限りがありますので、必要な方は連絡所を経由して早目に共同利用掛までお申し込み下さい。なお、製本版は2月中旬より配布可能です。

(ライブラリ室 電(内) 2508)

8. MANUALコマンドの変更について

「利用の手引センターコマンド編」の発行に伴い、MANUALコマンドの仕様を一部(COMMANDについてのみ)変更して、昨年運用を開始したCLPへの出力機能を追加しました。ただし、「利用の手引センターコマンド編」はB5で設計しているためA4で出力すると多少余白ができます。詳細は、以下のとおりです。

入力形式

```
MANUAL [ADL|ATLAS1|JAMOL3|JCL|MOVIEBYU|NUMPAC
|PROLOGKR|REDUCE|SALS|SLISP|SORP|UTILISP
|COMMAND [CB5B|CA4B|CB5|CA4|CB4P|LB5|LA4|LB4P|NLP|CLP]
.[OPR (OPR機番) ]
[PGINI (1, 開始ページ) ]
[PGFIN (999, 終了ページ) ]
[COPIES (1, 複写部数) ]
[CNT]
[IND] ]
```

オペランドの説明 (すべてのオペランドを省略したときは、現在入手可能なマニュアルの一覧が表示されるのでその中から選択する。)

ADL : Prolog系言語 ADL のマニュアル(和文)を出力する。

ATLAS1 : 英日自動翻訳システム ATLAS-I の辞書修正手引書(和文)を出力する。

JAMOL3 : 分子軌道計算プログラムシステム JAMOL3 のマニュアル(英文)を出力する。

JCL : センタージョブ制御文マニュアル(和文)を出力する。

- MOVIEBYU : 画像処理システム MOVIE/BYUマニュアル(英文)を出力する。
 NUMPAC : 名古屋大学開発の科学技術計算用サブルーチンパッケージ NUMPAC のマニュアル(和文)を出力する。
 PROLOGKR : PROLOG/KRマニュアル(英文)を出力する。
 REDUCE : 数式処理システム REDUCEマニュアル(英文)を出力する。
 SALS : 最小二乗法標準プログラム SALSマニュアル(英文)を出力する。
 SLISP : SLISPマニュアル(英文)を出力する。
 SORP : 「SORPコマンド使用の手引」を出力する。
 UTILISP : 富士通提供の UTILISPマニュアル(和文)を出力する。
 COMMAND : 「利用の手引センターコマンド編」を出力する。

これにはさらに数個のオペランドが付随しているのので、それに応じた印刷が可能である。プリンタとしても CLP, NLP, OPR を選ぶことが出来る。

CB5B|CA4B|...|CLP : 印刷装置, 用紙サイズ, 片面・両面刷, 1頁・2頁刷を選択する。

プリンタ	B5両面	A4両面	B5片面	A4片面	B4-2頁組	NLP-2頁組
CLP :	×	◎(CA4B)	×	○(CA4)	×	×
OPR :	×	×	◎(LB5)	○(LA4)	○(LB4P)	×
NLP :	×	×	×	×	×	◎(NLP)

括弧内の記号は、印刷命令で該当する印刷方式を選択するとき使用するオペランドの名前である。

◎ は標準の印刷, ○ は印刷可能であることを示す。

- OPR : OPR機番を指定。
 PGINI, PGFIN : 印刷範囲を頁で指定。省略値は PGI(1), PGF(999)。
 COPIES : 複写部数を指定。省略値は 1。
 CNT : 目次を作成し、印刷する。
 IND : 索引を作成し、印刷する。

注) 本文を印刷せずに索引と目次だけを印刷したければ、開始頁に999を指定すればよい。(PGI(999))

使用例 (COMMAND の場合)

- READY
 MANUAL COMMAND : センターコマンド編をNLPへ出力
 READY
 MANUAL COMMAND CLP : センターコマンド編をCLP(A4両面)へ出力
 READY
 MANUAL COMMAND OPR(XXXX) : B5片面でプリンタ名XXXXのOPRへ出力
 READY
 MANUAL COMMAND PGI(17) PGF(27) : センターコマンド編の17頁から27頁をNLPへ出力
 READY
 MANUAL COMMAND PGI(999) CNT : 目次だけをNLPへ出力

ライブラリ室(電(内)2508)

9. 「利用の手引 基本編」の発行について

この度、「利用の手引 基本編」(1990年版)を作成しました。

この利用の手引は、九州大学大型計算機センターを利用する際に必要な手続き、および、センターの業務内容等に関する基本的事項をまとめたものです。御希望の方は、連絡所を經由して共同利用掛までお申し込み下さい。

(共同利用掛 電(内) 2515)